

令和4年6月 定例記者会見（報告）

1 日 時 令和4年6月27日（月）13時～14時

2 会 場 庁議室

3 出席者

<報道機関>山形新聞、読売新聞、毎日新聞、NHK、YBC、YTS

<市>市長、秘書広報課長

4 記者倶楽部からの質問事項

(1) 参院選で支援する候補者とその理由を教えてください。

(2) 紅花まつりについて

紅花資料館（鈴木宅）の活用についての考えをお聞かせください。

資料館へは行きましたか。行った場合は感想を、行っていない場合は行く予定はありますか。

7月には県内各地で紅花まつりが開かれます。

米沢の紅花まつりとして、一番アピールしたいところはどこですか。

(3) その他

5 内 容

○秘書広報課長

これより令和4年度6月の定例記者会見を開催いたします。本日の記者会見では、初めに市長から情報発言があります。その後、記者クラブからいただいた事前の質問に回答させていただき、質疑に入らせていただきます。よろしくお願いいたします。

○市長

初めに米沢市からの情報発信をさせていただきます。まずは、よねざわ夏まつりについてです。よねざわ夏まつりは、米沢の夏の魅力を全国に広め、観光と地域経済を元気にするため、市内で開催される夏のイベントが一丸となって米沢を熱く盛り上げていくという内容です。期間は、7月1日(金)から9月18日(日)までの予定です。

第1弾は、最上川源流よねざわ紅花まつりです。会場は山上地区一円です。第2弾は、よねざわ肉の陣です。会場は松が岬おまつり広場で、7月30日(土)に開催されます。第3弾は、ミナミハラアートウォーク2022です。会場は南原地区一円です。よねざわ夏まつりのチラシは、7月1日号の広報と一緒に全戸配布をする予定です。四季のまつりに組み込んだ紅花まつりや肉の陣、ミナミハラアートウォークの他にも

関連行事がありますので、ぜひ記者の皆さんからもPRをお願いします。

○記者

この夏まつりは市長の2年分の思いが凝縮されて実現に至ったと思いますが、特に注目してほしい、見に来てほしいものはありますか。

○市長

最上川源流よねざわ紅花まつりがメインになると思います。7月1日から1か月間のロングランで進めていきます。昨年、地元の方を中心に開催しましたが、四季のまつりとして組み入れたのは今年度からになるので、今後紅花で地域おこしを進めていく上では、重要なイベントになると思います。よねざわ肉の陣は、商工会議所青年部の皆さんが昨年から予定をしていましたが、昨年はコロナの影響で実現しませんでした。今年が最初の取り組みになるので、今後どのように発展していくか期待しながら見守っていきたいと思います。ミナミハラアートウォーク2022は、昨年も実施しました。今年は、ピアニストの福田直樹さんが来てくださったり、日本画家の福王寺一彦先生のアトリエも特別出展されます。南原地区一帯の芸術・文化を若い人の感覚で表現し、継続して取り組んでくれることを期待しています。

今年度からは、夏のイベントの核になるものができたと思います。今後どのように発展・継承していくかが課題になります。米沢市のイベントとして、着実に市内外の皆さんに参加していただけるように努力していきたいと思います。

事前にいただいたご質問に回答させていただきます。今回のご質問は2点ありました。1点目は、「参院選で支援する候補者とその理由を教えてください。」です。

支援する候補者は、大内理加候補です。現在、県内の35市町村のうち29の市町村の首長が支援する体制を作っています。その一員として大内候補を支援する決意をしています。その理由の1つは、自民党の候補者であるということです。市長として、これまで米沢市の色々な政策における国との絡みの中で、政府与党自民党にお世話になってきました。これからは重要な課題については自民党を中心をお願いするというので、連携を強化していきたいと思います。

また我が国全体をとっても、コロナ対策や経済の回復をどのように図っていくか、ロシアのウクライナ侵攻に伴うエネルギー問題、物価上昇が大きな課題になっています。国難ともいえる侵略などにおける国防についてしっかりと取り組んでいただける政党は、自由民主党だと思います。これからの国内外における問題、米沢市の地域の活性化にしっかりと取り組んでいただきたいという思いを持って応援したいと思います。

現在5人の候補者が立候補していますが、最も信頼されるのは大内候補だと思います。県議時代に1期後輩の大内候補の活躍を、同僚として8年間見てきました。その活躍を見ていて、参議院議員としてもしっかりとやっていける資質を持っていると思いました。そのことも大内候補を支援する要因です。また大内候補は、県の紅花振興協議会の代表を務めています。米沢市も、紅花での地域おこしを実践しているのので、これからは紅花に関するパートナーとして連携できる方だと思い、大内

候補を支援したいと思います。

2点目は、紅花まつりについてです。「紅花資料館（鈴木宅）の活用についての考えをお聞かせください。資料館へは行きましたか。行った場合は感想を、行っていない場合は行く予定はありますか。7月には県内各地で紅花まつりが開かれます。米沢の紅花まつりとして、一番アピールしたいところはどこですか。」という内容です。

資料館は拝見しました。中学生の頃から鈴木先生の紅花に対する思いは理解していましたが、あの膨大な資料を見たときに、あそこまで大変な思いをして紅花の研究をされてきたということに頭の下がる思いです。今後は、あの資料を米沢市の紅花との関連でどのように残していけるか検討が必要だと思います。一日も早く世界農業遺産に選定されることが、この資料の活かし方に繋がっていくと思います。関係者の方と話し合いながら、これからの活用について検討していきたいと思います。

一日も早く世界農業遺産として選定していただいて、それによって誇りを持つことができると思います。紅花生産は以前からありましたが、米沢の生産量が多くなってきたのは鷹山公が亡くなって4、5年後と米沢市史に記載がありますので、SDGsの先駆けといわれる鷹山公をアピールしていきたいと思います。また、置賜全体の紅花を米沢に集めて、最上川を船で上り酒田に運び、北前船で関西や京都に運んだという記述も市史にあります。そういったことを誇りに思いますし、歴史に裏付けされたものをPRしていく必要があると思います。現在は、戦後の鈴木先生の努力によって紅花染めも米沢で確立されているので、歴史的な背景を基にして米沢市が紅花に対して先進的に取り組んできたということ、市民の皆さんをはじめ多くの皆さんに紅花まつりを通してアピールしていきたいと思います。

○記者

選挙のことについて伺います。現在の戦いぶりをどうお考えでしょうか。

○市長

まだ大内候補が立候補を表明して間もないので細かい部分はわかりませんが、現職が選挙には強いと推測しています。その中で大内候補が立候補を表明したということで、まさに退路を断っての決意だったと思います。その後、準備期間を含めて選挙戦に入っていますが、思った以上に善戦をしていると思います。

○記者

相手候補についてはどう評価していますか。

○市長

評価する対象ではないと思います。山形県選出の参議院議員だという認識はありますが、米沢市との関わりの中では特段の思いは持っておりません。

○記者

今後、大内候補を具体的にどのように応援していきますか。

○市長

まずは私の後援会に周知徹底をしていきます。米沢から選挙戦が始まったときにも応援の言葉を述べさせていただきました。そして今日、米沢で個人演説会があるとい

うことで、応援に行きたいと思っております。

○記者

紅花の話もありましたが、大内候補が米沢市に貢献してくれることはなんだと思いますか。

○市長

米沢市の生産者の皆さんは、大内候補が代表を務める協議会を通して紅花の売買をしているようで、生産者の皆さんとは連携をしながら紅花栽培をしている状況です。参議院議員になって、国との関わりの中で協力していただけることは何なのかしっかりと見定めて、米沢市の紅花まつり、紅花での地域おこしへの対応をお願いすることになると思います。

○記者

農政連は大内候補、舟山候補2人の支援を表明しています。農業が鍵になると思いますが、それぞれの候補が当選した場合にどのような効果があると思いますか。

○市長

元々対立候補の舟山候補は農政省の出身なので、農政連の皆さんは参議院議員の選挙においては舟山候補の方が強かったと思います。ただ今回は、どちらにも推薦をいただいたという話を聞いております。現在、食糧問題や直接支払い制度の問題などがあり、農家の人たちの声を聞くと、米作りにおいて大きな変換期を迎えているように思います。そういった問題を解決していく案があるのかということになると、農業団体・関係者の皆さんの議論が分かれるところだったと思います。そこで今回は、両者に推薦を出したのだと思います。

○記者

紅花のことについて伺います。小中学生に紅花をどのように伝えていきますか。

○市長

すべての小中学校ではありませんが、生産者の皆さんのご協力を得て、紅花栽培に取り組んでいる小中学校があります。世界農業遺産に認定されることがどういう意味を持つのか、教育委員会と連携して小中学校の生徒の皆さんに伝えていくことが重要になると思います。生産者も年々高齢化しており、常に後継者作りを心掛けていく必要があると思います。世界農業遺産に認定された後、紅花の継承に米沢市として小中学生も含めてどう取り組んでいくか考えていきたいと思っております。

○秘書広報課長

これを持ちまして令和4年度6月の定例記者会見を終了いたします。